



結核しずおか

37号2015年9月28日

発行・編集

公益財団法人 静岡県結核予防会

〒420-0915

静岡市葵区南瀬名町6-20

TEL 054-261-2512

FAX 054-261-9474

Eメール tb-shizu.ha@gaea.ocn.ne.jp

HP www.jata-shizuoka.org



巻頭言

今年6月、理事長に就任いたしました。当会は、公益目的事業であります「健康診断事業」と「普及啓発事業」について、県民の皆様の健康増進に、より一層寄与できるように、質の高いサービスを提供し、現下の大変厳しい環境にありますが、事業のさらなる拡大と事業基盤の強化に着実に取り組んでいく所存であります。

さて、当会は、昭和15年の設立以来、70年余の実績を踏まえ、結核を中心とする疾病の予防思想の普及・啓発、予防対策の健康診断などを行ってきました。結核は、かつて「国民病」や「亡国病」として恐れられてきましたが、生活水準の向上、医学・医療の進歩、その他関係者の献身的な努力により改善され、今後も、減少をしていくと考えられています。しかし、日本は、いまだ先進国の中では唯一の中まん延国であり、患者の高齢化の進行、無関心層の増大による若者の結核、ホームレスなど社会的弱者の結核、新規登録患者中の外国人の割合の増加、多剤耐性結核菌の出現などその状況は、より複雑化・多様化そして国際化してきております。従いまして、今後も、これまで同様、結核予防対策の普及啓発を推進していくことはたいへん重要であります。

ここ数年においても、日本各地では、結核の集団感染が後を絶たず、本県でも、昨年度、東部の医療機関において、結核集団感染が発生いたしました。このように、身近に「結核の脅威」を感じることも少なくはなく、「結核」は決して過去の病気ではなく、依然としてわが国最大の慢性感染症であり、現在進行形の疾病と言えます。

当会が行う健康診断事業は、感染症法などの法律や保健政策に基づいての対策型検診であり、公共的な予防対策として実施しております。また、新たに大きな健康課題である生活習慣病対策としての特定健診や各種がん検診など、時代の要請に応えるべく予防対策事業にも積極的に取り組みます。

このため、健康・保健対策事業の実施主体である保健所や市町の保健担当部局をはじめ、関係団体からのご指導・ご協力のもと、受診者の方々から信頼されるよう、各種検診体制の充実・強化や精度管理の向上に努めます。

また、結核予防のための普及啓発事業は、当会の柱の1つでもありますので、県結核予防婦人会と協力しながら、県や市町との連携のもと、結核予防キャンペーンの実施や健康啓発イベントへの参加、講演会の開催などの事業に引き続き取り組みます。

なお、現在、公益財団法人結核予防会との共同で、「平成27年度複十字シール運動」を8月1日から12月末まで展開しております。皆様のご深いご理解とご協力により、毎年多大なる善意をいただき、厚く御礼申し上げます。

今後とも、当会の事業運営につきまして、皆様方のご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。



公益財団法人 静岡県結核予防会 理事長

萩原 信幸

静岡県立総合病院オープンホスピタル



静岡県立総合病院 6B病棟 牧田規子

『なるほど！新発見！わたしの街の県立総合病院』をテーマに、オープンホスピタルが8月1日(土曜日)の午後開催されました。県民の皆様、地域の中核病院である当院の機能や設備、職員の姿について、皆様に楽しみながら知っていただくイベントです。実際の医療現場の見学等を通じ、児童・学生等の皆様が、将来医療従事者を目指すきっかけにもなるようにと、各部門の医師・看護師・検査技師・薬剤師などがそれぞれの特徴に合わせたイベントを企画しました。

私たち結核病棟でも、結核の実態を紹介し、結核を身近に捉えていただくことを目的に、「結核は過去の病気ではない！！長びく咳にご用心」というテーマで参加しました。結核について分かりやすく書かれた結核予防会のパネルと、当院のクリニカルパス大会で使用したポスターを組み合わせ展示しました。

結核予防会の「2015 結核の常識」のパンフレットも、結核予防会から100部いただき、来場者に配布しました。特にパンフレットは、とても見やすく、カラフルで人目を引き、皆さんお持ちになられました。

またマスクフィッティングテスターを2台用意して、マスクの漏れ率を測定しました。通常のサージカルマスクとN95マスクを用意して、両方着用時の漏れ率を測定し、比較体験していただきました。体験の希望者が予想外に多く、2台のテスターを用いてフル稼働でした。夏の暑い時期なのでマスクを体験される方は少ないと思っていたのですが、興味の高さがうかがえました。

体験された方からは、「サージカルマスクでは思った以上に空気を遮断できていない」、「マスクをしているから大丈夫なんてことはないんだね」というような感想が寄せられました。

私たちも、日本は結核の中蔓延国であること、結核は高齢者だけでなく若年者にも発症することから「結核は過去の病気ではない」こと等、説明させていただきました。

今回のような機会を通して、結核に対する知識の普及と啓発にこれからも力を注いでいきたいと考えています。



その他 当日行われたイベント

- オープニングミニコンサート：職員音楽サークルなごみと静岡吹奏楽団のジョイントコンサートです。お子様にもお楽しみいただけます。
- やってみよう！気管支鏡：検査で使用する気管支鏡を操作することができます。バーチャルリアリティ・トレーニングシミュレーター体験もできます(中学生限定)。
- 福島物産展：特産のもも、トマト、きゅうり、お米等の農産物、全農福島のジュース、福島の名産品薄皮まんじゅう、会津せんべい、福島ブランドの米チップ等を販売いたします。
- 勇気を出して乳がん検診：乳がん検診の啓発、乳がんと診断された後の、病気や生活相談窓口を設けます。
- 看護の仕事って…あったかいんだから～:Ns(ナース)服を着てみよう!! Nsをやって良かったエピソードの掲示、看護体験ゲームほか
- 『手術室』怖い?痛い?暗い?
いえいえ体験したらあなたのイメージ変わります:
手術器具を使ってお菓子つかみをしよう。世界初(?)キッズ手術着試着。最新手術の展示。日々に役立つ手洗いのポイント。手術室看護師の成長をまとめた動画放映。
- 糖尿病の検査-血糖値を計ってみよう-:糖尿病に関する新しい検査(例:CGM検査)やインスリンポンプについて検査技師スタッフがポスター掲示を行います。

結核の今⇄昔 Vol. 4

～結核と偉人～

2015年、財団法人結核予防会製作のACジャパンの広告ポスター、CMが出来上がりました。自身も2011年に結核を罹患し、以来ストップ結核パートナーシップをおとつめのタレントのJOYさんが出演しています。今回は『JOYと偉人』と題して、結核を患い亡くなった各時代の偉人との共演です。長い長い歴史の中で、『結核』は生き続け、その脅威に、数々の偉人たちが苛まれてきたのです。

みなさん若くして亡くなられてる!!



結核のない世界をめざして!!



協力：(公社)ACジャパン

石川啄木 1886年生-1912年没 享年26才
(歌人・詩人／代表作：一握の砂・悲しき玩具)

中学時代、文芸雑誌『明星』の影響で文学を志すこととなったのですが、反面、学業がおろそかになり、落第が決定的となったため退学し、16才で故郷の岩手県より上京します。17才のとき、『明星』に作品を発表、注目されますが、文学で生計を立てるまでには至らず、半年も満たずに帰郷。その後、父親の金銭問題や自身の結婚により、亡くなるまでの約10年間、一家の重みを一身に受け、貧困と借金、孤独と流転、また結核による病苦の生涯を送ることとなります。その中で、生まれた歌には、甘美な初恋やいらぬ働けども一向に楽にならないくらしの苦悩、年老いた父母へ苦勞をかけることへの自責の念などが表されており、当時の啄木の想いに触れることができます。彼の人生は波乱に満ちたものでした。彼の死の直前に、母が結核で亡くなります。また、彼の死の翌年、妻が結核で亡くなります。そして、彼の死後誕生した次女も19才の若さで結核によりその命を絶たれることになります。

『呼吸(いき)すれば、胸の中(うち)にて鳴る音あり。風(こがらし)よりもさびしきその音(おと)!!』

これは、啄木が最後に作ったとされる歌のひとつ。結核を病み、胸の中から響くその恐ろしい音を想像すれば、彼の人生の寂しさを感じずにはいられません。



正岡子規 1867年生-1902年没 享年34才
(俳人・歌人／代表作：病床六尺)

『子規』とは『ホトギス』という意味です。子規は雅号(俳人が使う本名とは別の名)として自身をこのように名乗りました。22才で結核を発病し、喀血したときからこの名を使い始めます。ホトギスは口の中が赤く、鳴く血を吐いているように見えます。自身をそのホトギスになぞらえたのです。それから亡くなるまでの10数年、彼の創作活動は、まさに『結核』とともにありました。代表作『病床六尺』。これは、晩年、結核から脊椎カリエスとなり、臀部や背中から膿が出るようになり寝たきり生活を送っていた子規が、死の2日前まで新聞に連載し続けた随筆集です。180センチ(六尺)の布団が、彼の世界のすべてでした。しかし、その文章は、そんな彼の状況を感じさせないほど、俳句評論から美術、政治、美食、活動写真などの流行りもの、能狂言論、漁魚釣り、子供や女子への教育論、時事ネタなどについて、ユーモアを持って楽し綴られています。病床にあっても、彼の旺盛な知識欲と好奇心は衰えることはありませんでした。自身の病状の苦しさや辛さに対してすら、客観性を失わず描かれており、そこに陰鬱さや悲惨さがないのが特徴です。



←ホトギス

樋口一葉 1872年生-1896年没 享年24才
(小説家／代表作：たけくらべ・にごりえ)

現在、5千円札の肖像として一般的になじみもある彼女ですが、その人生は、苦悩に満ちていました。父親や長兄の死により、17才の若さで家督を継ぎ、父親の残した負債などの影響もあり、貧しい生活を強いられます。もともと文学に通じていた彼女は、生活のために小説家を志し、代表作をはじめとする数々の作品を生み出しました。特に、晩年には、わずか14ヶ月の間に、10作品を執筆しており、『奇跡の14ヶ月』とよばれています。作品が注目され、脚光を浴びはじめた矢先、結核の発病が判明します。既に手遅れの病状であり、発病からわずか3ヶ月でこの世を去ります。長年の辛苦と過労、栄養不良が重なった発病であったと考えられます。しかし、生活苦や様々な経験が、彼女の文学に深みと趣を加えることとなったことも事実であり、その作品は、今もなお、様々な人々に賞賛され光を放っております。



滝廉太郎 1879年生-1903年没 享年23才
(作曲家／代表作：荒城の月・花・憾)

幼いころより、音楽に興味を示し、15才になると、最年少で東京音楽学校(現在の東京藝術大学)に合格。在学中、その才能を一気に開花させます。誰もが、一度は耳にしたことがあるであろう代表作『荒城の月』。これは、彼が学生時代に作曲し、コンクールで受賞したものです。その成果もあって、文部省の外国留学生として、ドイツのライプツィヒ音楽院に留学することとなります。日本人の音楽家では2人目となる快挙でした。順風満帆であったかと思われた彼の音楽人生ですが、もともとの病弱体質および急激な環境の変化により、留学後わずか2ヶ月で結核を発病。1年で帰国、失意のうちに、故郷の大分で静養しますが、回復することなく、翌年、その短い生涯を閉じました。

廉太郎の遺作は、死の4ヶ月前、療養しながら製作した『憾(うらみ)』という作品です。心残りや未練、無念といった意味の不安や焦燥、怒りがそのまま吐露されたような、激しく悲愴な仕上がりに感じ、やりきれなさを感じます。

結核が原因で、その死後、多数の作品が焼却処分されたとされ、現在、確認されている作品数は34曲です。もし、焼却され、世に出ることのなかった名作が存在していたら、悲しいことです。



ここに掲載した誰もがみな、その短い生涯の中で、後世に長く残る作品を生み出しています。まるで、生き急ぐように、数々の名作を生み出しているような気がします。『結核』という病気は、一般的に神経が研ぎ澄まされ、健康な人の目に見えないところも見えて来るようになり、更に末期になると病に平気になり、呑気になるものの依然として鋭い神経を持つ傾向がある。それが、芸術作品や創作活動に影響を与えているという見解もあるようです。若くして亡くなった芸術家たちが、こんなに短命ではなく、もっともっと生きていたら・・・結核が治療可能であったなら・・・どれほどの作品がもっともっと数多く、世に残されていたのだろうと思うと、たいへん惜しいという思いもいたします。芸術面から、『結核』を捉えることで、『結核』という病気が、容赦なく、素晴らしい才能を摘み、その貴重な宝が世に放たれる機会を奪うということを考えさせられました。この事実は、現代においても変わりません。『治療可能である』という以外は、状況は何も変わっていないのです。

『結核なんて』と思われる方々に、『結核』について知ってもらいたい。身近に感じてってもらいたい。その思いで普及啓発活動に取り組んでおります。このお話が、少しでもそのお役に立てればと思います。



8月1日の複十字シール運動開始に際し、7月31日（金）静岡県結核予防婦人会長野蝶子会長・鈴木節子副会長と当会の萩原理事長・築瀬常務理事・シールぼうやが大須賀副知事に表敬訪問を行いました。

萩原理事長から、この複十字シール運動は、結核や肺がんなど呼吸器系の疾患をなくして健康で明るい社会を作るため、これらの病気に対する知識の啓発と予防意識の高揚を図るとともに、事業資金を集める活動であること、また、わが国の結核の現状は、平成26年中に新たに結核患者として登録された人は19,615人で、人口10万人当たりの罹患率は15.4と、世界の中では依然として結核の中まん延国として位置付けられていることを伝えました。また、厚生労働省は、平成32年（2020年）の東京オリンピックまでに、罹患率を10以下を目指すことを宣言し、官民の連携を持って推進することが約束されました。

表敬訪問の様子は、当日のお昼のSDTニュースと静岡新聞朝刊に報道されました。



●結核予防週間 9月24日から30日 

今年の結核予防週間は、『長引く咳は“風邪”・・・“結核”かも!?!』をスローガンに実施します。

この一週間を、「結核の制圧」に向けて、国民一人一人に理解と協力が得られるように知識を深め、結核対策の推進に一丸となって取り組むことが必要であります。



普及・啓発イベント実施のお知らせ

- 9/26(土) 13:00~15:00 結核予防週間キャンペーン アピタ静岡店
- 9/27(日) 10:00~14:00 富士市2015健康まつり 富士市フィランセにて
- 10/10(土)・11(日) 静岡元気応援フェア2015 ツインメッセ静岡
- 10/24(土) 伊豆市社会福祉大会

※各地の健康まつりやイベントにて普及・啓発活動を実施中

●県・各市町の健康まつりなどで、当会職員の参加（普及啓発活動・追加住民検診）、各種パネルの貸し出しやシールぼうやの派遣をしています。 お問い合わせは：総務課 鈴木まで



複十字シール運動 運動期間 8月1日~12月31日

静岡県募金目標額 1400万円



公益財団法人結核予防会が実施します複十字シール運動（結核などの胸の病気を制圧するため、複十字シールを媒体として全国統一して募金活動を行う運動）を静岡県は1400万円を目標に実施します。

皆様の温かい善意の募金は、結核予防思想の啓発活動、発展途上国の結核対策援助等の緒事業に充当させていただきます。

今年も複十字シール募金へのご協力をお願いいたします。





なぜ・なぜ・なあに？

検診から学ぶ ～大腸がん検診～



現在、静岡市住民検診で胸部レントゲン車に乗って市内の各所を廻り多くの住民の方と接しています。そんな中で検診の重要性をお話することが度々あります。男女ともに半数の人は一生のうちに癌と診断されます。日本人は肺がん・胃がん・大腸がんの罹患率が高く、現在の症例数では男性は胃がんを抜いて大腸がんが1位になり、女性でも乳がんの次が大腸がん(死亡率は1位)であると報告されています。

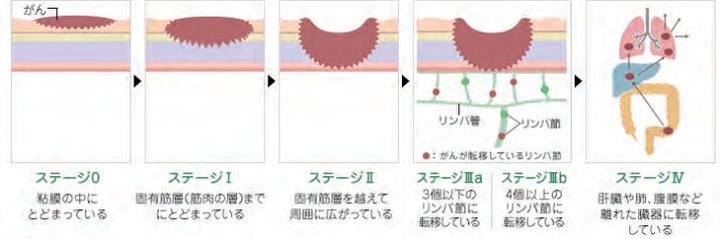
大腸がんは早期発見をすれば完治する確率が高いといわれています。検診時にその事を住民の方にお話していたところ、住民の方から昨年大腸がんの開腹手術をやったということをお聞きしました。あと1年早ければ内視鏡で処置できたが、1年遅ければ転移していたかもしれないと医師から言われたそうです。その方は今後検診を続けていきたいと言っていました。そこで検診の重要性をあらためて実感することができました。



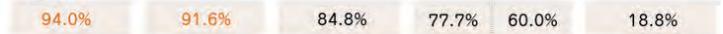
大腸壁の構造



大腸がんのステージ



5年生存率



出典：大腸癌治療ガイドラインの解説 2009年版（金原出版）
大腸癌治療ガイドライン医師用 2014年版（金原出版）

大腸がん検診のひとつに便潜血検査があります。当会では毎年約5000件の便潜血検査を行っています。その中で陽性反応が出るのが5%程度あります。陰性であり症状が出ていないので自分では健康体と書いていても病気が潜んでいることがあります。症状が出てからでは手遅れになることがあります。検診の目的を理解して健康だから検診を受ける、調子の悪い人は病院で診察を受けるその違いを理解することが大切です。

大腸がんの進行具合はステージ0～ステージ4です。大腸の壁にどれだけ深く入り込んでいるか、転移はあるか、進行度によって治療の方法も違います。ステージ0～1の場合は5年以上の生存率は90%以上です。早期発見がいかに大事か、検診がいかに大事か今後肝に命じて業務に取り組みたいです。

業務課 杉山卓弘

整腸作用に役立つ

健康レシピ

しいたけと豚バラ肉の甘辛炒め



しいたけ

体内の老廃物や毒素などを対外に排泄するのを促す作用があり、内臓の働きも活発になり、**整胃・整腸・便秘を良くする効果**があります。



ピーマン

カロチンやビタミンAに転化、体の生理作用を円滑にし**整腸作用**に役立ちます。

つくりかた

1. 豚バラ肉を3～4cm幅、ピーマン・きのこ類を1cm幅くらいに切る。

2. フライパンを熱し、豚バラ肉を炒める。色が変わってきたら、野菜類を加え、火が通るまで炒める。

3. 2に★の調味料を入れ、味を絡ませる。



Let's Cooking!



材料 <2人分>

- ・豚バラ肉 200g
- ・しいたけ 6～8個
- あれば、まいたけ・エリンギなど 少量
- ・ピーマン 1～2個

★調味料

- ・しょうゆ 大さじ1
- ・酒 大さじ1
- ・さとう 大さじ1
- ・みりん 大さじ1

結核予防会の本



結核を中心とする疾病の予防に関する正しい知識を広く県民の方に普及するために、公益財団法人結核予防会が編集・出版している専門書やパンフレットなどの案内をしております。

好評発売中



結核に関する新情報！ 日々の業務に欠くことができない雑誌

「保健師・看護師の結核展望」105号

特集① 「感染症の改正」

特集② 「高齢者の結核 ～地域で支えるネットワークづくり～」

特集③ 「ITを利用した服薬支援」

トピックス

「結核の統計を振り返って」や、また「これ知っておこう」のコーナーでは、「ゲドム」を取り上げ、盛りだくさんの内容となっております。

この雑誌は、定期購読を利用することが出来ます。定価 2,052 円(税込)

保健所・医療機関などがあると便利な1冊

「結核の統計」2015

平成 26 年の結核登録患者情報調査
年報集計結果が網羅されております。定価 3,240 円(税込)

平成 26 年改訂版へ切り替えを！



平成 26 年改訂版

感染症法における 「結核対策」

保健所・医療機関等に
おける対策実施の手引き
定価 4,860 円(税込)

平成 26 年改訂版

感染症法に基づく 「結核の接触者 健康診断の手引き その解説」

定価 2,808 円(税込)

書籍の注文および出版案内をご希望の方は、公益財団法人静岡県結核予防会までお問合せ下さい。

TEL: 054-261-2512 FAX: 054-261-9474
HPでは最新情報を掲載しております。どうぞご利用ください。
HP: <http://www.jatahq.org>



講演会のお知らせ

開催日 平成27年11月27日(金)
時間 14:00～16:00
場所 男女共同参画センター あざれあ 4F 第一研修室
静岡県駿河区馬淵1-17-1
演題 調整中
講師 決定次第ホームページに掲載いたします。

※参加聴講をご希望の方は団体名、参加人数を直接電話かFAXまたはメールにてご連絡ください。

＜連絡先＞

公益財団法人静岡県結核予防会
TEL 054-261-2512
FAX 054-261-9474
E-mail tb-shizu.ha@gaea.ocn.ne.jp